

教師と生徒の余暇時間が及ぼす良い影響に関する研究

守本 恵理 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 新井 博

キーワード：児童 遊び コミュニケーション

1. 緒言

小学校の教員というのは、学業の評価をするだけでなく児童一人一人の性格、体調、家庭、など多くのことを把握しておく必要がある。また、担任の先生となると1年という長期期間で児童と関わる。そして、授業、掃除や給食の時間など多くの時間を共有する。

しかし、授業や掃除時間などの教育面からだけでは、児童の実態を知ることは難しい。

そこで私は、普段取れないコミュニケーションの時間を休み時間に補い、児童と距離を縮めることが出来るのではないかと考えた。そして、本研究では、子供にとって一番コミュニケーションを取りやすい「遊ぶ」という行為は教育現場では教師と児童の間でどのように関係するのか。また、教員は、児童とのコミュニケーションを取り、そこから児童の何を読み取り、児童に対してどう理解を深めていくのかを研究し、今後教育現場でどのように活用できるのかを目的とする。

2. 研究方法

S小学校の教員16名にアンケート調査を行う。教員歴によって児童と「遊び」の内容やコミュニケーションの取り方に変化はあるのか。今までの教員の経験を基に、教員からの視点による児童との休み時間の過ごし方など。また、コミュニケーションを取る中で教員は、児童のどのようなことを理解したいのかをアンケート調査によって明らかにする。

3. 結果と考察

S小学校では、教員の年齢層が比較的高く、休み時間に児童と遊んでいる教員は少なかっ

た。しかし、遊ぶことで、児童との距離を縮め、児童の理解に努めることができる。

また、休み時間の生徒の行動や言動は、素直で一番子供らしさが見える。その中で、コミュニケーションを取り、児童と近づくことで、より一層「児童」と「教員」という立場で仲を深めることができる。一緒に遊ぶことで、生徒自身のことを知りたいという教員が多くみられた。そして、教員は、学年・性別関係なく、児童の人間(友人)関係や今、児童の思っていることや悩み事などに対して敏感に感じ取れるように注意を向けている。

4. まとめ

遊びの中でコミュニケーションを取ることは、子どもの感情が自由になり、児童の素直な心の部分が見える。そして、そこから友達関係や抱えている問題を知り、児童の理解を深めていく。

現在では、コミュニケーションを取る力が低くなってきていると言われている。しかし、教育現場では、一番必要なことである。

人と人とのつながりを深めていき、児童も教員も互いに理解し、過ごしやすい学校環境を整えていくことが、これからの課題なのではないだろうか。

5. 参考文献

桑原 広治 (2007)

教育現場で、なぜ、コミュニケーションがうまくいかないのかー教育コミュニケーション入門ー

